

Relief

リリーフ

2016
July
vol.24



特集 第11回連続講座



平成28年4月28日から6月9日までの毎週木曜日(5月5日除く)、第11回連続講座を開催しました。

“体験から生まれた叡智と生き方”というサブタイトルで、6名の講師にご講演いただきましたので、ご紹介いたします!



Profile

5月26日

おお まえ こう いち
大前 光市 氏

プロダンサー

な手なのですが、温かくて大きかったです。その手に包まれたらずっと痛みが引いていくと同時に、何かよくわからない安心感が体中に広がりました。父は僕がダンスの道に進むのを邪魔しにくる存在だと思っていたのですが、実はそうではなくて、この人は根っここのところずっと僕のことを応援してくれていたのだなということがやっとわかった気がしました。

だから、その手に包まれて、僕にとって無様だった父の手がすごく強くてきれいだなと思うようになり、そのときに、僕もそれでいいと思いました。それまでは、つま先が伸びて、すごく足が長くてとか、そういうような理想を描いていたのですが、そうはなれない。僕もすごく筋肉質の体をしていて、足はこんな足をしているのですが、それでいいのです。格好良さはいろいろあります。父のおかげで、どんな姿になっても僕は踊り続けようと思ったのです。とりあえずエネルギーはあるから何とかなるだろうと。

退院して練習を再開してみるものの、そううまくはいきません。今までだったら目をつぶっていてもできた簡単なダンスが、義足になったことで簡単ではなくなりました。オーディションも受けてみましたが、落とされるのです。それでも何とかして踊る方法はないのか、その当時の僕はいろいろ考えながら試行錯誤し、踊っていました。

“無様”でも 生きることは美しい

おまえ、もっと真っ当な仕事につくことを考えろ

ダンスの道を歩もうと決めた僕は、父にずっとそう言われていました。ダンスで食べていけるのはほんの一握りのやつだけだと。父は建築の仕事をしていて、ダンスの華やかな世界などに全然縁のない人でした。だから当時の僕は父を敵対視していて、振り切るようにして大阪に出てきました。大学に通いながらレッスンを積み、アルバイトもして、すごく頑張りました。そして、23歳のときにダンスで給料がもらえる舞踊団に受かりかけたのですが、その直前に交通事故に遭ってしまいました。

大前君、これ、切らなきゃだめだわ

すぐに病院に運ばれましたが、そのとき先生にこう言われました。左足を切断して義足をつけることになると。切断。意味がわかりませんでした。これからの僕の人生は順調だったはず。頑張ってプロの劇団に入り、あの人たちと同じような舞台上に立って活躍するのだと言っていた僕が、ポンと肩透かしというか、足とともにどこかに飛んでいったような、突然前に進めなくなった感じでした。

無様でも踊り続ける

病院に駆けつけた父が、痛くてどうしようもなく苦む僕の手を両手で握ってくれました。すごく汚くて、ごつごつして、太くて、筋肉質の、石みたい



～体験から生まれた叡智と生き方～

連続講座



あるダンスの発表会に出たときに、佐藤典子先生と出会いました。先生の娘さんは、骨肉腫で左足を失った後に23歳で亡くなっておられます。そこに23歳のときに同じく足を失った僕が重なったみたいでした。「金糸雀（カナリヤ）」という作品をつくるから、主役の足をなくしたカナリヤをやってほしい、そのときには義足を外して踊ってほしい、さらに冒頭のシーンでは足をなくして動けないさまを表現してくれと言われてました。その当時、僕はいかに人と同じように踊れるかを考えていたので、すごく抵抗がありました。でも、やってみたらお客さんからすごい拍手がもらえたのです。たくさん動かなくてもドラマチックな表現ができたなら拍手はもらえるのだということに初めて気づいたのです。それで、やっと自信につながりました。これで僕は表現者として通用すると思いました。

運命を受け入れ、どう捉えるか

もう一つ、この「金糸雀」を通して僕が勉強させてもらったのが運命の捉え方についてです。運命って、最初のうち黒かったり苦しかったり、すごく嫌な感じで来るのです。だから、僕もずっと苦しみました。でも、それってその先も本当は苦しいのかは捉え方だと思います。僕は10年くらい苦しきましたが、その運命と向き合ったからこそ、僕にしか咲かせられないような花があることに気づきました。その花を育て、咲かせるための養分みたいな感じで僕は運命を受け入れています。捉え方によって運命というのは敵にもなるし、味方にもなる。そうすると、これから起こる嫌なことや嫌な人など、そういうものの捉え方もちょっと変わってくるのです。そうすることで、過去を嘆いたり、人と比べたりすることなく、自分らしく生きたいと思えるようになりました。

4月28日

養老孟司

東京大学名誉教授

「死から見えてくるもの」



6月2日

広野ゆい

NPO法人DDAC
(発達障害をもつ大人の会)代表

「発達障害という
個性を生きる」



5月12日

鳥越俊太郎

ニュースの職人

「がんと向き合って」



6月9日

倉田めば

薬物依存リハビリテーション・センター
大阪ダルクディレクター

「私が手渡したいもの」

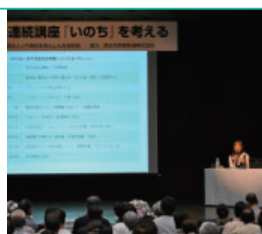


5月19日

藤田和子

若年性アルツハイマー病の本人
NPO法人若年性認知症問題にとりくむ
会・クローバー副理事長
日本認知症ワーキンググループ共同代表

「認知症のわたしたちが、考えていること、いっしょにつくっていききたいこと」



平成27年度AED訓練器等提供団体の活動紹介

「安全で安心できる社会」の実現に向けて、応急手当の訓練等を実施して救命処置の普及活動を行う団体を広く募集し、平成27年度は11団体に30セット、28年度は8団体に19セットのAED訓練器を提供しました。今回は、1年目の活動を終わられました平成27年度提供団体の活動内容をご紹介します。規模や対象はさまざまですが、どの団体も熱心に工夫を凝らしながら活動されています。今後も引き続き、普及活動に取り組む団体への応援・助成を行っていきます。

京都橘大学救急救命研究会 TURF



地域住民や保育園の職員、園児を対象に講習会を開催。少人数グループをつくることで、限られた時間で効率よく多くの人に体験していただくことができました。受講者の生活の場や要望にあわせた内容の指導ができました。

神戸国際大学防災救命クラブ



定期的に一般市民や学生を対象に講習会を開催したほか、要請に応じて子ども達や企業(介護施設職員)へ出向いて講習を行いました。実施内容は、修了証の発行できる3時間の講習会や、AED使用等の啓発を行いました。

公益財団法人青少年野外活動総合センター



主に MEDIC First Aid® チャイルドケアプラス™のカリキュラムに沿って、講習を実施しました。成人用に加えて、小児用や乳児マネキンを用いた心肺蘇生法の訓練を行い、全年齢をカバーすることができました。

垂水マミーズ



多くの親子が参加する「親子ひろば」の中で講習を行いました。インストラクターがママであることの強みを活かして、子育ての中で経験した子どもの事故や怪我の話も採り入れて、救命講習をより身近に感じてもらうことができました。

社会福祉法人豊中市社会福祉協議会



毎年1月に災害発生時における訓練を実施しています。今回、AED訓練器の展示や、使用方法等を職員が参加者にレクチャーする機会を設け、災害時における訓練の一環として行うことで、緊張感を持って参加いただきました。

日本ボーイスカウト大阪連盟



指導者が救急法のスキルを身につけ、青少年に対して技能を普及・指導する活動を行っています。昨年度より、「幼児救急法講習会」を新設し、幼児・乳児に対する救命講習を行うとともに、成人に対する講習を加えた講習会を指導者向けに実施しました。

東播磨地域防災の会



仕事の特性上、必要性が高いと考え、障がい者介護施設の職員の皆さんを対象に、心肺蘇生講習会を実施しました。施設の運営上、全員参加とはなりませんでした。多くの職員の方が真剣に講習に臨まれており、非常にやりがいのある講習会となりました。

東五百住さつき自主防災会



「市民救命士を目指して」を合言葉に普通救命講習会の3時間コースを開催しました。本会の応急手当普及員の指導で新規の資格取得や更新の方などが参加され、万一の時に備えて真剣に学んでおられました。

特定非営利活動法人プール・ボランティア



AEDを使用した講習は、申し込む手間や時間の拘束というハードルがあり、なかなか受講する機会がありません。もっと、気軽に受講してもらいたいとミニAED講習を実施したところ、受講しやすく助かる等の声を多くいただきました。

学校法人森ノ宮医療学園 森ノ宮医療学園専門学校



依頼を受けた企業に出向き講習を実施。疾病者を中心に、心肺蘇生を行う人、その周りに集まった人に指示する人など、実際の事故を想定して、役割を交代しながらくり返し行い、全員が反復実践できるようにしました。

ゆりのき台自治会



子どもを交えた訓練を実施。小さな子供にも命を救う一助ができればとロールプレイを通じて体感してもらいました。AEDの設置場所を知っているなど、できることはたくさんあると考えさせ、家族で協力しあって設定を変えて実施しました。

平成28年度安全セミナーを開催します!

- 日時** 平成28年9月16日(金) 14時30分～16時30分 ※開場14時00分
- 会場** 松下IMPホール(JR・京阪 京橋駅より徒歩5分)
- 主催** 公益財団法人JR西日本あんしん社会財団
- 協力** 西日本旅客鉄道株式会社・関西鉄道協会
- 講師** 防災システム研究所所長 山村 武彦氏
- 演題** 『命を守るためのそれぞれの危機管理 ～その前に、そしてその時、すべきこと～』
- 定員** 700名(参加無料・要事前申込)



応募方法

- ・ ホームページ(<http://www.jrw-relief-f.or.jp/>)からご応募ください。
- ・ 応募締切 平成28年8月12日(金)
- ・ 応募多数の場合は抽選のうえ、結果をメールでお知らせします。
- ・ 参加いただく方には、8月31日までに参加証をお送りいたします。※受講には参加証が必要です。
- ・ ご応募いただいた個人情報、当セミナーの運営および財団からのお知らせ以外の目的には使用しません。

平成28年度公募助成活動

● 公募助成団体の活動紹介

フレンズかわにし実行委員会 フレンズかわにし 2016

福知山線列車事故から11年となるこの春、事故の風化を防ぐとともに、心身の安らぎを与えられる音楽イベントが開催されました。事故を忘れない取り組みを行う団体による葉の配布、似顔絵缶バッジを製作する団体の出展などにあわせ、被災者支援のための募金を実施し、多くの人が関心を寄せていました。また事故に遭われた方による歌唱ライブや、「いのちの大切さ」や「周りの人に支えられたこと」等についての体験談トークなども催され、多くの方々が集まり耳を傾けておられました。



特定非営利活動法人 全日本企業福祉協会 ホッとネットおおさか避難者交流会

東日本大震災の避難者との交流を目的に、ホッとネットおおさかの加盟団体がそれぞれのブースを出展しました。その中で子ども達の「学習サポート」や「囲碁・将棋」コーナーの運営を中心に活動しました。他にも相談コーナーや喫茶・ケーキコーナー、パネル展示、販売コーナーと多岐にわたり展開していました。避難者は50名以上が参加され、スタッフのきめ細やかなサポートで避難者相互の交流を深めておられました。



平群町ボランティア連絡協議会 みんなで作ろう! 防災かまどベンチ

平時はベンチとして利用し、災害時には炊き出しによる食料の供給等ができる「かまどベンチ」を10基以上製作してきた中、今回は平群町老人福祉センターのかしのき荘で活動が行われました。天気もよく、ボランティアスタッフも汗だくになりながら、和気藹々と段取りよく作業を進めていきました。他団体や他府県からもかまどベンチの問い合わせがあるとのこと、地道な活動の大切さを感じることができました。また、経験者による初心者への指導場面も見受けられ、スタッフ全員が使命感を持って活動されていることが強く伝わってきました。



特定非営利活動法人 和歌山県木質資源開発機構 園児に対する早期の防災教育

当日は園児、保護者、園関係者、総勢約160名が参加するという大規模な講習会となりました。被災時に必要な行動が子ども達にもわかるよう制作した防災ソング「台風ロックンロール」で、保護者が園児と一緒に踊ったり、新聞紙を利用した簡易トイレを製作することで、親子でライフラインの重要性や災害時の生活についての理解を深めていました。屋外では、ペール缶コンロを使用して10分程度で1.8リットルのお湯を沸かし、備蓄食料を試食したり、配食訓練を行っていました。ミニ防災講座も開かれ、助け合うことの必要性の話について、真剣に聞き入る姿が印象的でした。



● 今後のイベント情報

虹玉の会 自死遺族サポート「虹」

映画鑑賞会と監督との交流

日時：8月7日(日) 14:00～18:00

場所：三田駅前一番館 キッピーモール6階

概要：映画鑑賞の後、監督との質疑応答 自死遺族対象の分かち合いの会を開催します。

問合せ：虹玉の会 自死遺族サポート「虹」

T E L: 079-567-1446

F A X: 079-568-0005

MAIL: mail@nijitama.net

特定非営利活動法人 発達凸凹サポーターてくてく

事故、災害等発生時における発達障害児への心理的サポート研修

日時：8月8日(月) 10:00～12:00

場所：大東市明美の里町16-30 (四条駅3分)

概要：事故や災害が発生した時に発達障害児にスムーズにサポートできるように保護者や教員に対して研修を行います。

問合せ：特定非営利活動法人 発達凸凹サポーターてくてく

T E L: 072-877-8055

F A X: 072-877-8066

MAIL: dd_teku2_dd@genki.zaq.jp

認定NPO法人 日本レスキュー協会

尼崎市防災総合訓練

日時：9月1日(木) 9:00～12:00

場所：尼崎市記念公園

概要：地震、風水害等の災害において、市域の防災体制の確立を図り、災害救助犬による救出訓練を行います。

問合せ：認定NPO法人 日本レスキュー協会

T E L: F A X: 072-770-4950

MAIL: info@japan-rescue.com

稲野自治会

災害時要援護者支援活動／稲野町と隣接地域教育機関のコラボレーションステップ2

日時：9月11日(日) 10:00～14:00

場所：大手前大学、短期大学校庭及び阪急稲野駅前公園（稲野児童遊園地）

概要：防災意識を高めるため、稲野センターから大手前大学への避難訓練、避難所設営と炊出しを行います。

問合せ：稲野自治会

T E L: 072-772-4677

特定非営利活動法人 遺族支え愛ネット

対話力をアップしよう！「よりよいピアサポーターを目指す気づきの連続講座」

日時：9月24日(土) 13:30～15:30

場所：大阪府立ドーンセンター中会議室（天満橋駅5分）

概要：心身を体操などでリラックスさせながら良きサポーターを目指すための講演、講義を行います。

問合せ：特定非営利活動法人 遺族支え愛ネット

T E L: F A X: 06-6282-7489

MAIL: sasaeai@lily.ocn.ne.jp

聖和 寄り合いまちづくり

聖和防災ふえすた

日時：10月16日(日) 14:00～18:00

場所：大阪市立聖和小学校

概要：「防災フェスタ」を開催し、防災意識を高めながら子どもからお年寄りまでの世代間の交流を高めます。

問合せ：聖和 寄り合いまちづくり

T E L: F A X: 06-6772-1319

MAIL: Afelb007@oct.zaq.ne.jp

たかしま災害支援ボランティアネットワーク「なまず」

被災地生活基盤再生のお手伝い活動

日時：10月27日(木)～30日(日)

場所：福島県南相馬市

概要：被災地生活基盤再生のお手伝い活動です。自宅に戻れるための除染に役立つ、障害物の除去作業を行います。

問合せ：たかしま災害支援ボランティアネットワーク「なまず」

T E L: F A X: 0740-25-5095

MAIL: info@takashima-namazu.net

特定非営利活動法人 働く者のメンタルヘルス相談室

自死遺族の自責感をやわらげるシンポジウム

日時：10月28日(金)～29日(土)

場所：枚方ラポール

概要：自死遺族パネル展と自死遺族相談会を開催します。講師を呼び、学校での自死防止について講話をいただきます。

問合せ：特定非営利活動法人 働く者のメンタルヘルス相談室

T E L: 06-6242-8596

F A X: 06-6881-0782

MAIL: sodan@mhl.or.jp

「第4回いのちのリレー大会」 参加者募集!!

第1回から第3回まで京都駅で開催しました「いのちのリレー大会」を、今年は大阪駅5階の時空(とき)の広場で開催します。

「いのちのリレー大会」では、倒れている人を発見してから救急隊に引き継ぐまでの一連の救命処置を、3人1組のチームで協力して行っていただきます。皆さまからのご応募をお待ちしております。



開催概要

- 日時** 平成28年11月3日(木・祝) 13:00~15:00
- 場所** 大阪駅 5階 時空(とき)の広場
- 応募条件**
 - ・近畿 2府 4 県の小学校・中学校・高等学校に在学中の児童・生徒および一般の方
 - ・3人1組のチームであること
- 応募方法** 参加申込書(当財団ホームページからダウンロード)に必要事項を記入のうえ、メール(info@jrw-relief-f.or.jp)でご応募ください。〔参加無料〕
※メールでご応募できない方は、FAX(06-6375-3229)も可
- 応募締切** 平成28年9月12日(月)必着
※応募チーム多数の場合は抽選し、その結果を9月20日(火)頃お知らせします。
出場が決定したチームには、事前に「課題やポイント」をお知らせしますので、安心して出場していただけます。
- 表彰** 救命処置の的確さを競っていただき、上位チームには表彰のうえ、記念品を贈呈します。
- お問合せ** JR西日本あんしん社会財団
TEL:06-6375-3202(平日 10:00~17:00)
Email:info@jrw-relief-f.or.jp



編集後記

平成28年度春の連続講座を開催しました。今回は、「体験から生まれた叡智と生き方」をサブテーマに講師の方々がお話をしてくださいました。がん闘病・若年性認知症・義足のダンサー・発達障害・薬物依存症など、実際に体験された方のお話を聞くことは大変感慨深いものがありました。次回の第12回連続講座は秋に開催予定です。みなさんもぜひ、「いのち」について考えてみませんか？

〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目4番 24号
TEL:06-6375-3202 FAX:06-6375-3229
E-mail:info@jrw-relief-f.or.jp
URL:<http://jrw-relief-f.or.jp/>